



家の光協会は

人・組織・地域の

幸せづくりをめざす

農協運動の底力

となります。



“つながる・広がる・願いがかなう”共感の輪

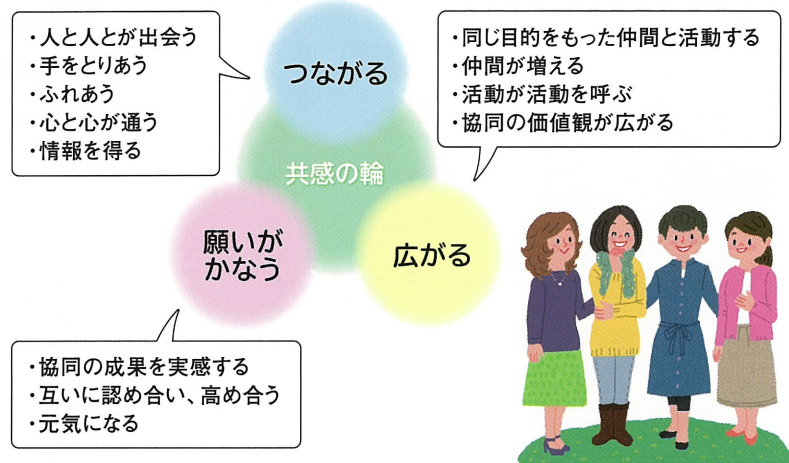
# 家の光協会は、人・組織・地域の幸せづくりをめざす農協運動の底力となります



## “つながる・広がる・願いがかなう”共感の輪とは

『家の光』の読者をはじめ、JAの組合員とその家族・地域住民が、“つながる・広がる・願いがかなう”ことによって幸せをつかっていく協同の好循環サイクル=共に感動する「共感の輪」を表しているのが左図です。共感の輪がたくさん起こると、小さな輪はさらに大きな輪となり、人・組織・地域の幸せが次々に生み出されます。

感動は人を動かし、幸せづくりの原動力となります。



## JAは人・組織・地域の幸せをつくる

JAは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、組合員とその家族の営農や生活をはじめ、地域住民の暮らしを支え、地域社会に貢献するさまざまな事業や活動に取り組むことで人・組織・地域の幸せをつくります。

### 人の幸せ (6つの願い)

- 1 健康に恵まれ、老後も元気に安心して暮らしたい(身体面の願い)
- 2 一定の収入を確保して、ゆとりのある生活がしたい(経済面の願い)
- 3 心の豊かさを求め、潤いのある生涯を送りたい(精神面の願い)
- 4 住みよい地域環境を守り、快適に暮らしたい(環境面の願い)
- 5 地域や他者の役に立ち、充実感のある人生を送りたい(社会貢献の願い)
- 6 自ら主体的に活動へ参画し、生きがいを追求したい(自己実現の願い)

### 組織の幸せ

組織に結集する一人ひとりが生き生きと活動し、さらに組織が元気になること

### 地域の幸せ

すべての人々が笑顔で暮らしている社会であること

1925年(大正14年)、家庭から協同の心を育むことを目的として、家庭雑誌『家の光』は創刊されました。

現在、農家人口の減少や高齢化、過疎化など、農業・農村・JAを取り巻く環境は厳しさを増しています。また、政府による規制改革の流れの中で、協同組合としてのJAグループのあり方に大きな見直しが迫られています。

日本の食と農を守り、組合員とその家族・地域住民の幸せを実現するためには、自主・

自立の組織として総合事業を営むJAをよりどころに多くの人々が結集し、協同の力を発揮しなければなりません。

そこで家の光協会は2025年の『家の光』創刊100周年に向けて、創刊の原点に立ち、地域社会に“つながる・広がる・願いがかなう”というサイクルからなる、共に感動する「共感の輪」を生み出すことを提案します。そのために、「5つの実践」をとおしてJA教育文化活動を支援し、人・組織・地域の幸せづくりをめざす農協運動の底力となります。



『家の光』創刊号

## 家の光協会のめざす姿

“つながる・広がる・願いがかなう”共感の輪の循環を「5つの実践」によって補完・支援し、『家の光』創刊の原点に立ち、農協運動を盛り上げていくことが「底力」の意味するところ です。

JAがすすめる、人・組織・地域の幸せづくりのために、JA教育文化活動を支援し、農協運動の底力となるのが、家の光協会のめざす姿です。



家の光協会の  
5つの  
実践

実践

1

協同の心・協同の力を  
JA内外に普及・広報します

「家庭から協同の心を育む」という『家の光』創刊の原点に立ち、本会事業を通じ協同の心・協同の力をJA内外に普及・広報します。

実践

2

雑誌・図書などの持つ力を最大  
限発揮し、食と農をはじめとした  
多彩な企画を提供します

雑誌・図書を柱に、本会事業の持つ情報発信力を最大限発揮し、「食と農」「暮らし」をはじめとして、より多くの人たちが幸せを実感できる多彩な企画を提供します。



実践

3

仲間づくり、生活文化と農家所得  
の向上、JAへの結集を促す“今日  
的”な記事活用を提案・強化します

仲間づくりや地域づくり、読者の営農や暮らしに役立つ“今日的”な記事活用や文化活動を提案・強化します。



実践

4

食と農、読書を基軸に、広く地域  
に貢献する公益事業を展開します

食と農、読書を基軸としてJAや関係団体と連携し、幅広い世代や地域に貢献する公益事業を展開します。



実践

5

農協運動の底力となるために、  
自由な発想をもってたゆまぬ  
事業革新を続けます

本会役職員は、農協運動を底力となって支え、組織の負託に応えるために、常に事業の革新を図ります。

